

# 慢性期医療認定病院クローズアップ

## 39 協立温泉病院

### 慢性期医療認定病院の審査、第39号の認定を受けて

医療法人協和会 協立温泉病院（兵庫県川西市）

院長 藤岡秀樹

#### 当院の概要

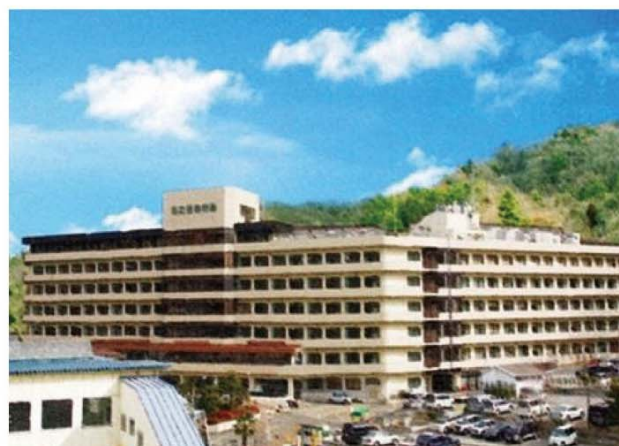
当院は1982年（昭和57年）、医療法人協和会（現在、兵庫県南東部と大阪北摂地域を中心に6病院、4介護老人保健施設、2在宅支援事業所を運営）の2番目の病院として兵庫県川西市平野に開設された。病院名は当地平野に湧出していた平野温泉に由来する。この炭酸鉱泉は、平安時代、清和源氏の祖：源満仲の鷹狩の折に発見されたという逸話を留め、いまは三ツ矢サイダー発祥の地としても知られている。開院時の221床から増改築を経て、現在は回復期リハビリ病床：50床、医療療養病床：265床、一般障害者病床：150床の計465床9病棟となり、阪神北圏域における回復期慢性期医療の一端を担っている。

日本医療機能評価機構による認定は2003年（平成15年）を初回として、2013年（平成25年）には3回目の認定（3rdG:Ver.1.0）を更新した。また2014年（平成26年）に兵庫県から阪神北圏域リハビリテーション支援センターとして業務委託を受け、圏域のリハ支援体制や活動事業の推進に貢献している。

#### 認定審査の受審、認定と今後

当院では2013年（平成25年）から電子カルテシステムの導入を始め、翌年9月に電子カルテへ移行した。以前から検討中であった臨床指標（以下、CI）の現実的な取り入れを可能にしたのは、この電子カルテに負うところが大きい。

2015年度（平成27年度）の病院活動方針の1つにCI導入を掲げ、本格的に準備を開始した。その過程で戸惑ったのは、評価項目の中には基準や期間などの明確でない事項があり、データの解釈や抽



出方法について議論となった。日慢協によれば、このような場合は当該病院の独自の判断により回答可能で、その判断の理由根拠は審査の対象であるとの見解であった。

回りハ病棟と療養病棟の2病棟を受審対象とし、2016年（平成28年）11月に認定審査を受審した。審査結果の大略は全体的に良くできているとの評価をいただいたが、領域1（医療）の得点がやや低く治癒率や改善率の向上を指摘された。その原因は、対象が医療区分2+3比率の高い病棟であったことにもよるが、データチェックや評価基準に関するところもあり早速対応をしている。

今後はCI評価が当院の医療の質向上にどの程度有用か、まず対象病棟の経時的モニタリングの継続とその分析による検証が必要となる。有効となれば、このCI評価をいかに効率よく他病棟へ応用するかが次の課題であろう。加えて将来、認定病院のData（評価基準などの整合性が必要であるが）集積によりベンチマークが可能となれば、その資するところはきわめて大きいと考えている。

おわりに、ご多忙のところ来院いただいた審査員の皆様に深謝申し上げたい。